



## 第10回 葦山反射炉の世界遺産エリア

# 世

界遺産登録への推薦にあたっては、各資産の『世界遺産エリア』を明確に示す必要があります。そこで今回は、葦山反射炉の世界遺産エリアについて紹介します。

葦山反射炉は、『実際に稼働した反射炉として世界で唯一現存』する反射炉本体のみだけではなく、関連するさまざまな建物なども含め、製砲工場としての産業システムを形成していました。この製砲工場としてのエリアが、現在柵などで囲まれている国史跡指定地（大正11年指定）です。そしてこの史跡指定地に加え、世界遺産エリアとして予定しているのが、史跡指定地東側を隣接して流れる鳴沢川の一部です。

では、なぜ鳴沢川が世界遺産エリアになるのでしょうか。大砲のもととなる反射炉本体で溶かした鉄のかたまりは、『すいだい錐台小屋』という施設に運ばれます。そこで水車により回転させ、中心をくり抜き大砲として完成となります。この水車の動力源となったのが、鳴沢川を流れる水でした。このことから、鳴沢川も製砲工場としての産業システムの重要な一部であったといえます。

また、鳴沢川はこれまでに河川改修などにより改変されていますが、流路そのものは当時と大きく変わっていません。このようなことから、鳴沢川も葦山反射炉と一体となつて世界遺産としての価値を証明する資産であり、世界遺産エリアとして推薦しようとするものです。

今後、葦山反射炉を訪れた際には、当時製砲工場として操業していた姿に思いをよせながら、ぜひ鳴沢川にも注目してご覧ください。

☎ 世界遺産推進課

055(948)1425